

# はんしん



写真・文 山田哲也

41

## 有馬温泉

日本のサイダーのルーツは有馬温泉（神戸市北区有馬町）にあった。1908（明治41）年、愛宕山の東、杉ヶ谷から湧き出る炭酸水を使い、香料や甘味を加えて「アリマサイダー」を製造したのが始まりだ。

れた炭酸水であることが初めて分かっ

# 日本のサイダーのルーツ

た。サイダーはその後、1926（大正15）年に日本麦酒鉾泉（現・アサヒ飲料）に買収されるまで、有馬で作られていた。最近では2002年に、地元の旅館や酒屋の主人らが協力して、新しい有馬みやげとして「ありまサイダー」（1本250円）を復刻した。

現在、泉源のある場所は「炭酸泉源公園」として整備されている。公園内には神社のような建物があり、中央に井戸が掘られている。昨年まで炭酸水が湧き出していたが、湧水量が少なく、市営共同浴場「銀の湯」で使用する分を確保するため、今は止められている。

炭酸水は建物左側の飲料場で飲むことができる。口に含むと炭酸の味がするが、鉄さびのような臭いもある。大正時代には井戸の横に茶店があり、炭酸水を一杯5銭で飲ませたという記録も残っている。

神戸電鉄・有馬温泉駅下車。問い合わせは有馬温泉総台案内所（078・904・0708）。

杉ヶ谷はかつて炭酸ガスが吹き出し、これを吸った鳥や虫が二酸化炭素中毒で死んだことから、「地獄谷」とも呼ばれていた。湧き出る水は毒水と恐れられ、明治初期まで人が近づかなかったという。しかし、明治6年に、この水を内務省司薬場で調べた結果、それまで毒水とされていたのが、飲料水として優



炭酸泉源公園にある炭酸水の飲料場。近所に住む男性（40）は小学生の時、カルピスを炭酸水で割って飲んでいただけ